

## 第6回 北九州脳卒中地域連携パス協議会 議事録

日時：2011年1月20日（木） 19:00～19:20

場所：リーガロイヤル 3階 エンパイパルルーム

出席者（敬称略）（順不同）

委員長：石束 隆男

副委員長、事務局代表：蜂須賀 研二

副委員長：浜村 明德

担当理事：井手 誠一郎

事務局幹事：小田 太士

オブザーバー：重吉 桂司

委員

健和会大手町病院	脳神経外科	末廣 栄一
北九州安部公園病院	内科	田中 繁
北九州総合病院	脳神経外科	西村 茂
北九州市立門司病院	ソーシャルワーカー	前田 秀隆
小倉リハビリテーション病院	リハビリテーション科	大野 重雄
戸畑共立病院	脳神経外科	辻 武寿
芳野病院	理学療法士	小西 智晴
戸畑リハビリテーション病院	作業療法士	東谷 成晃
正和中央病院	リハビリテーション科	浦上 泰成
正和なみき病院	リハビリテーション科	浦上 泰成
新生会病院	ソーシャルワーカー	内野 八重
牧山中央病院	内科	山根 堅司
北九州八幡東病院	理学療法士	山下 太
新日鐵八幡記念病院	ソーシャルワーカー	三宅 仁史
北九州市立八幡病院	脳神経外科	越智 章
九州厚生年金病院	理学療法士	林 秀俊
宗像水光会総合病院	ソーシャルワーカー	内田 圭美
新中間病院	ソーシャルワーカー	和田 菊栄

欠席者

健和会大手町病院	看護師	鴨崎 治美
北九州中央病院	リハビリテーション科	奈良 聡一郎
九州労災病院	脳血管内科	荒川 修治

	看護師	森本 タケ子
小倉記念病院	脳神経外科	村井 望
戸畑けんわ病院	リハビリテーション科	二見 哲夫
北九州市立医療センター	脳外科	勝田 俊郎
新小倉病院	脳神経外科	吉開 俊一
九州労災病院門司メディカルセンター	神経内科	武井 崇展
新小文字病院	脳神経外科	金子 陽一
済生会八幡総合病院	脳神経外科	岡本 右滋
新日鐵八幡記念病院	脳血管内科	藤本 茂
産業医科大学病院	ソーシャルワーカー	野田 雅美
東筑病院	リハビリテーション科	前川 信行
遠賀中間医師会おかがき病院	ソーシャルワーカー	野邊 薫

東和病院、三萩野病院については委員未選定

その他、一般出席者	急性期病院	医師	15名	医療従事者	10名
	回復期病院	医師	3名	医療従事者	34名
	一般病院・施設	医師	3名	医療従事者	30名
	北九州市保健福祉局		1名		

司会 北九州脳卒中連携バス協議会 委員長 石束 隆男先生

## 議事内容

### 1. 連携バス協議会事務局幹事 小田

#### 連携バス利用状況

これまでのバス利用状況ならびにこれまでのバスの集計結果について述べた。

北九州医師会に報告済みの連携バスは、平成22年12月末現在、約400件で漸増傾向にある。バス利用医療機関は、急性期病院は約半数、回復期病院では約8割の病院で、一般病院は4病院と増加傾向にある。病型は、脳梗塞51%、脳出血24.5%、くも膜下出血5%であった。男女比は、男性：女性=54：46である。発症は、70代をピークとし、順に80代、60代と続く。平均在院日数は、急性期病院25.2日、回復期病院78.7日である。今後は、麻痺の重症度別の平均在院日数を調査する予定である。急性期、回復期退院時のそれぞれのBarthel Indexは、急性期病院退院時46.3点、回復期病院退院時72.5点と急性期退院時の1.5倍となっている。言語障害、高次脳機能障害、片麻痺、歩行について調査結果を示した。最後に回復期病院からの転帰先について述べ、自宅復帰率73%であった。

今後は詳細な集計ならびに統計を行う予定である。

#### 連携バス Ver.2 に対するお問い合わせ

##### . F I M の 3 桁 以上 の 点 数 が 入 力 で き な い

事務局で対応し、すでに修正したファイルをアップロードした。

## ・パスの患者様説明用は、Ver.1の方が見やすい

これまで急性期から維持期までA3サイズの1枚で急性期から維持期までの流れが1枚のシートで全体を把握しやすい状況でしたが、今回、病期を各A4サイズにしたことで逆に全体の流れが把握できないとのことであった。(しかし、A3サイズでは必要な各病期の流れがわかりにくいとの意見が多く、Ver.2の作成に至った経緯があります。)

## ・急性期から回復期病院に転院となった場合、具体的な転院先は急性期シートからは判別不能である

今後の急性期や回復期シートに具体的な転院先が明記できるスペースを作成するなどの改訂を検討する。

## ・医療機関用の原本をコピーした場合、原本かコピーか不明となる

原本はカラーではないため、コピーをすると原本とコピーの判別が不能となる。産業医科大学病院では、原本を薄黄色にしている。今後、色付き原本の配布を希望される病院が多い場合は、事務局から配布することを検討する。

## ・医療機関用シートを医師会に郵送することを拒否される患者様がいる

名前の匿名化、名前を記載せず生年月日、年齢から患者様を特定するなど現在、検討しています。委員の皆様のご意見を総合し、対応策を決定する。

## 2. 連携パス協議会 副委員長・事務局代表 蜂須賀研二先生

北九州脳卒中地域連携パス協議会は、福岡県より福岡県医療連携体制推進事業として各医師会に委託を受け、北九州地域医療連携運営委員会を医師会内に設けた。この事業の一環として「北九州脳卒中地域連携パス協議会」を設置開催することになった。さらに、北九州市医師会より産業医科大学リハビリテーション医学講座に本事業の委託を受け、北九州脳卒中地域連携パス協議会として発足した。協議会事務局は、産業医大リハ医学講座内に置き、連携パス協議会は北九州リハビリテーション医会の協力のもと開催している。

北九州市内の脳卒中連携パス協議会は、行政や医師会の協力体制を仰ぎ、急性期病院13病院、回復期病院18、かかりつけ医約50の医療機関を中心に形成されている。その中で産業医大リハ医学講座は、急性期から維持期に至るまで各病期に対しリハビリの医療支援を担っている。急性期は、重度障害リハビリ医療支援として、ロボット訓練などを行い、回復期は、専門的リハビリ医療支援として、嚥下障害の診断治療、装具・義肢、高次脳機能障害の病態、障害診断、治療、経頭蓋電気刺激、痙縮に対するボトックス治療などを実践している。さらに、維持期は、一般的リハビリ医療支援として、障害診断、訓練指導、二次障害対策の指導を行うなどの支援体制を構築している。さらに、教育研修として、FIMやかかりつけ医に必要なリハ診察などの講演を開催している。

今後の予定として、1月27日(木)19時～ 市立商工貿易会館2階にて北九州市医師会「介護保険・かかりつけ医研修会」が開催される。内容は、連携パスの運用と介護保険、障害評価で

ある。次回の協議会からは、今後導入予定である、大腿骨近位部骨折の協議会も同時開催する予定である。本協議会では、「顔の見える連携室」としての役割を果たす予定である。今後の協議会・リハ医会は製薬会社3社の持ち回りで開催協力を得る予定である。

急性期病院は、パスは可能な限り北九州標準モデルをご使用ください。また、独自の連携パス協議会は開催しないで下さい。

### 3. 事務局連絡事項

第7回北九州脳卒中地域連携バス協議会の開催予定

2011年6月9日（木）19:00～ ウェル戸畑

維持期医療機関の本協議会委員への登録は増加傾向にあります。急性期から維持期までの包括医療を実践するためには、特に維持期医療機関の御協力が不可欠です。まだ登録されていない維持期医療機関で登録を御希望される際は下記まで御連絡下さい。

これまで同様、パス使用時は、コピーを必ず北九州医師会へFAXまたは郵送して下さい。

〒802-0077 北九州市小倉北区馬借1-7-1

北九州医師会内 北九州地域連携運営委員会

FAX 093-513-3816

今後のパスの運用に活かすため、急性期から回復期もしくは回復期から急性期病院への御意見をお聞きしています。連携パスに関する御意見もしくは今後の協議会での議題についての御要望は下記まで御連絡頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1

北九州脳卒中地域連携バス協議会事務局（産業医科大学リハ医学講座）

担当職員：菊池晶子、事務局幹事：小田太士

Fax: 093-691-3529 E-mail: [reha@mbox.med.uoeh-u.ac.jp](mailto:reha@mbox.med.uoeh-u.ac.jp)

文責 北九州脳卒中地域医療連携バス協議会 幹事  
（産業医科大学リハビリテーション医学講座）

小田 太士